

海難防止標語

「大漁旗 掲げて今年も 安全操業」

海難ゼロをめざして ～落水時の連絡通報装置～

雪解けも進み、春の気配を感じる季節となってきました。間もなく、オホーツク海では流氷が姿を消し、全道各地でホタテの稚貝出荷や放流、定置網、流し網、刺し網など様々な春漁が活発になる季節でもあります。この時期は、高気圧と低気圧が交互に通る、天気が数日の周期で変わり、気象海象が大きく変わることもあり、十分に注意が必要です。また、寒暖の差も大きく、体調を崩しやすい季節でもありますので、体調管理にも気を付けてください。

さて、春が近いとはいえ、海水温はまだ低く、万が一海中転落した場合には生存可能時間に限りがあり、早い通報と救助がカギとなります。救助通報は、当然通報しなければ、救助が来るまでの時間が大幅に遅れます。現在では機器等の開発が進み、直ぐに SOS 通報できる機器がありますので、ご紹介をさせていただきます。

【主な落水時の連絡通報装置】

- ・ PLB（携帯用位置指示無線）「総務省」
- ・ JM-Safety 落水検知ユニット「日清紡ホールディングス」
- ・ yobimori 「(株)nano Freaks」
- ・ 救急コール「三菱電機特機システム(株)」

ライフジャケットの着用が義務化されて

ライフジャケットの着用義務化が平成 29 年 2 月から始まり、罰則は 5 年間の周知期間を経て令和 4 年 2 月から開始されました。浜を巡回すると以前よりライフジャケットを着用されている方が増えたと感じます。そんな中、着られていない方もいるな—と思ったら合羽の中に着られていました。合羽の中に着る場合、固形式であれば問題ないのですが、膨張式だけは、一番外側に着用してください。水を感じて自動膨張、または手で紐を引き膨張させる仕組みになっており、合羽の中に着ると水を感じ膨らむまでの時間がかかることと、手動の場合、紐を引けません。もし、そのような状態で海中転落したら「膨らまない!」「やばい!」と、かなり焦りを感じるだけで済むと良いのですが、膨張するまでの間水中に没したり、海水を大量に飲み込んだりすることもあります。また、定期的にメンテナンスを行っていないと、作動しないこともあります。

必ず膨張式だけは、一番外側に着用し、定期メンテナンスも忘れずに行ってください。

定期メンテナンスは、お持ちのライフジャケットメーカーのホームページ等でご確認ください。

海難防止標語

「 着ない理由 探して考え 事故に遭い 」

搜索救助にあたった救難所に表彰

令和4年4月23日に発生した知床観光船沈没事故に、行方不明者の搜索に尽力したとして、斜里救難所と羅臼救難所の両救難所が、北海道と日本水難救済会より表彰されましたのでご紹介させていただきます。

- ・令和4年12月21日「北海道社会貢献賞」(海難救助功労者)
- ・令和5年2月9日「日本水難救済会会長表彰」(団体救助功労)



斜里救難所 (北海道社会貢献賞)



羅臼救難所 (北海道社会貢献賞)



斜里救難所 (日本水難救済会会長表彰)



羅臼救難所 (日本水難救済会会長表彰)

亡くなられた方々に対して、ご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様に対し、慎んでお悔やみを申し上げます。また、現在行方不明の方々につきまして、一刻も早く発見されることをお祈りいたします。

海難防止標語

「 波に揉まれて はじめて思う 着ていゃよかった 」